

関寛之

戦績

マイナビジャパンビーチバレーボールツアー2021
都城大会第22回霧島酒造オープン（BVT1） 9位タイ
ジャパンビーチバレーボールツアー2021
サテライト大成温調シリーズ碧南大石カップ（BVT2）優勝



関寛之さんは、1992年2月24日に京都府で生まれ、中京大学へ進学後、豊田市の小学校で勤務していました。2年前に碧南緑地ビーチコートで行われたビーチスポーツの体験会に、ビーチバレーの講師として参加したことがきっかけで、碧南市へ赴任することになり、現在、鷺塚小学校の先生として働いています。

社会人2年目から本格的にビーチバレーに取り組み始め、5月29日に開催された第36回ビーチバレージャパン（全日本選手権）愛知県予選会で優勝し、見事本選に出場することが決まりました。

先生として働く一方で、週末は全てビーチバレーの練習に費やし、さらに大会前は平日3日程度練習しているそうです。8月に行われるビーチバレージャパン本選まで約1か月の心境を伺いました。

小学校の先生でアスリート ビーチバレージャパン本選出場

問 経営企画課広報戦略係 ☎ 95-9867





1. 碧南緑地ビーチコートのふかふかな砂 2. 鷺塚小学校での授業の様子
3. 所属するチームMAGSでの練習 4. 一緒に出場するペアの詫間悠さん（左）と

碧南緑地ビーチコートがあるから

元々は新舞子マリンパークのビーチコートで練習していましたが、碧南緑地ビーチコートができたことによって、練習場所を使い分けています。新舞子の砂は、粒が荒く固いのでジャンプしやすいですが、碧南緑地ビーチコートの砂は、ふかふかで動きづらいです。碧南の砂をしつかり踏めれば、この会場でもしつかり動けるので、大きな大会の前は、碧南で練習しないと感じています。1年前は碧南のような砂質の会場があまりなく、全然上手くプレーできていなかったのですが、ようやく慣れてきて砂を足でしつかりつかめるようになりました。

ビーチバレーの魅力

室内のバレーボールをやっていた頃と比べると、いい天気の時など、外で動くことが気持ちいいです。特に碧南緑地ビーチコートの砂はふかふかなので、けがもしないですね。

また、ビーチバレーは1チーム2人で控え選手もいません。監督やコーチもベンチには入れないので、試合中は選手2人だけで戦います。2人しかないからこそ、すぐ頭を使うスポーツだと思っています。その前の得点のとり方によって、ただのワンプレーでも、先の試合展開につながっているところが魅力的なスポーツだと思います。

仕事との両立

練習時間を確保するために、限られた時間の中でどれだけ効率よく仕事ができるかが難しいです。最近はビーチバレーで、前よりも考えてプレーすることが増えたため、授業でも同じように、それぞれの児童の発言の意味をよく考え、発言を予測したりして授業をスムーズに進めるようになりました。そして、児童たちが応援してくれることがこれまでのビーチバレーの成績につながっています。試合で勝ったことを報告すると、児童たちが自分のことのように喜んでくれるので、それが大きな力になり、自分の心の弱い部分への支えになっています。

これから目指すもの

2026年アジア大会で日本代表になることが一番の大きな目標です。そのためには、今が一番大事だと思っています。

まずは8月12日からの本選に向けて、格上の選手に勝つための新しい動きをしつかり身につけたいです。そして、多くの方に応援してもらっていることを忘れずに、絶対に表彰台に上ります。

関さんが所属するチーム
MAGSのInstagram

